



認知症の困難事例

先日、東京都が主催の認知症サポート医フォーラム研修で、認知症困難事例に対しグループワークをしました。

症例は高齢男性の方で、分かっていながら無銭飲食を繰り返してしまっただけで、よくよく話を聞いてみると、もともと物の整理に無頓着な気質に、認知症も加わり、生活力が落ちてしまっただけで、前頭側頭葉型認知症と分れば、薬物治療には限りがあるのでは、早期に施設に入ってもらった方がいいのでは、と患者さんやご家族から、前頭側頭葉領域の脳梗塞など血流障害があれは、血圧管理や血液をさらさらにする薬などでの治療を検討します。

今回のケースで問題になっているのは窃盗です。人間の認知機能が病的に後退した症候群であり、病気の呼称ではありません。しっかりと診断を立てた治療介入が必要です。

日頃の診療でも認知症で困っている方は、ご本人、家族とも、大勢いらっしゃいます。早目に医療機関に相談し、治療の道



松原 清二 医師
 在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
 総合内科専門医・循環器内科医
 ・日本循環器学会専門医
 ・日本内科学会認定医
 ・認知症専門医
 ・認知症サポート医

た治療介入が必要で、困っている方は、ご本人、家族とも、大勢いらっしゃいます。早目に医療機関に相談し、治療の道

【まつばらホームクリニック】
 ☎ 042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
 (訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応: 午前9:00~午後6:00
 ■定休日: 土日(祝日は診療)
 ■訪問地域: 西東京市、奥久留米、新座、練馬の一部
 まつばらホームクリニック 検索